

慶長16(1611)年の「慶長の大津波」から4年後の元和元年(1615)に盛岡藩主南部利直公が宮古を訪れ、現代の都市計画とも言える町割^{まちわり}をし、宮古は当地方の政治・経済の中心として発展してきました。「慶長の大津波」から400年後の平成23(2011)年に東日本大震災津波に見舞われ、その4年後の平成27(2015)年は宮古港開港400周年となります。

宮古港とは



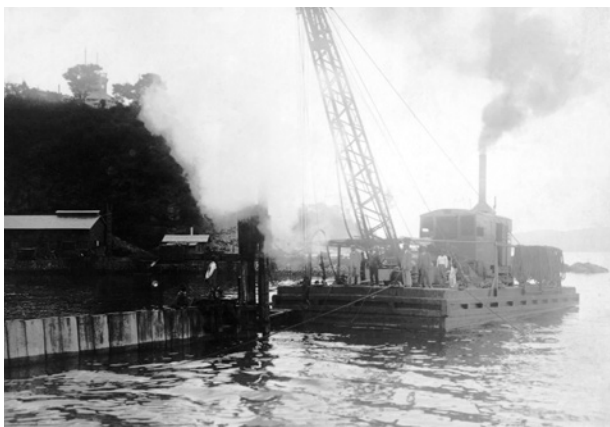
三閉伊通海岸整正分間絵図（もりおか歴史文化館蔵）

宮古湾は、東に重茂半島が外海である太平洋をさえぎって自然の防波堤となっています。近世(江戸時代)から江戸(東京)と松前(北海道)間の交易において、唯一の避難港にもなったことから、多くの帆船が寄港し「南部の宮古港」として有名になりました。

また宮古湾は、閉伊川と津軽石川の河口が砂浜であり、東西に北上山系と重茂半島による岩礁を擁するため、多種多様な海産物の宝庫ともなっています。宮古港を擁する鯨ヶ崎浦、代官所が置かれた宮古町は、帆船の絶好の寄港地となります。

江戸時代中期には、鰯^{いわし}の地引網漁が始まり「干鰯(ホシカ)」と言って肥料にされ、魚油も江戸に出荷されました。文政年間(1818～29)には、鮪大網が開発され、漁獲高を飛躍的に増大させました。明治維新後も岩手県は、世界三大漁場とも言われる三陸海岸をひかえ、水産界の先進地域でした。宮古は、県立水産学校が設置されるなど、その中心を担いました。

近代の宮古港



出崎ふ頭の埋め立て工事(昭和10(1935)年頃)

明治維新後も三陸沿岸随一と言われた宮古港は、船舶の大型化や物資の増加に対応するため、明治15(1882)年に宮古橋下から現在の漁協ビル(当時は宮古測候所)までを埋立て、新川町に運河を通し、築地に船着場を設けました。

北上山地に隔てられた宮古にとって、港はまさに玄関口でした。明治45(1912)年には新川町運河を埋立てて市街地化し、大正2(1913)年には鯨ヶ崎埋立同盟会が設立されます。約9千平方メートルの鯨ヶ崎前埋立て工事は、大正6(1917)年10月に完成し、現在の鯨ヶ崎市街地が形成されました。

大正13(1924)年に宮古町と鯨ヶ崎町の合併が実現し、昭和2(1927)年、宮古港は政府から第二種重要港湾の指定を受け、出崎ふ頭の築港工事に着手します。昭和8(1933)年の昭和三陸地震津波により甚大な被害が出ましたが、昭和12(1937)年完成に至りました。これにより、現在の出崎ふ頭に3千トンの船舶2隻が接岸できる岸壁と、竜神崎から255メートルの防波堤などが建設され、約8万2千平方メートルの埋立地が造成されました。

(下) 昭和32(1957)年9月1日前の宮古港。魚市場前から竜神崎、閉伊川河口までサンマ船が並ぶ。その数、五百余船。全国から集結したサンマ棒受網船は、漁解禁と同時に宮古港から出漁した



宮古港海戦

明治2年3月25日
(1869年5月6日) 明け

方、蝦夷地(北海道)を占拠していた旧幕府脱走軍の軍艦「回天」は、追討軍として北上してきた新政府艦隊8隻が停泊する宮古港にたつた1隻で突入しました。不利な戦況を打開するため、回天を新政府海軍の主力艦「甲鉄」に接舷し、兵士を乗り込ませて甲鉄を奪い取る作戦でした。

当初は回天の奇襲にあわてた新政府艦隊の各艦船も徐々に応戦し、次第に回天側の死傷者も増加してきたため、ついに回天は甲鉄の奪取を断念して退却することとなります。この間わずか30分あまりの戦闘ですが、回天の冒険的な戦術と勇気が称揚され、宮古港海戦は日本人による洋式海戦のさきがけとして顕彰されてきました。



宮古港海戦記念碑



中里団地の官軍勇士の墓(宮古市指定文化財)



宮古港海戦の図(宮古ホテル沢田屋蔵)

震災を乗り越えて

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災は、宮古港に甚大な被害をもたらした。被災直後は港湾機能の多くを失いました。

しかし、発災から時間がたつにつれ、各方面からの救援物資が宮古港に接岸した船舶



震災直後、藤原ふ頭に接岸した船から救援物資を運び込む様子

を通じて供給されるなど、宮古港は重要な「物流拠点」としての役割を果たすようになりました。

平成23(2011)年5月には、国・県・市・港湾関係者による宮古港復興会議が立ち上げられ、同年8月には、「～産業・物流復興プラン～『宮古港復旧・復興方針』」が策定されました。被害を受けた施設の復旧も進み、平成25(2013)年4月からは大型客船なども相次いで寄港しています。

平成27(2015)年現在、宮古港では復興工事などに使用される砂などの資材が多く搬入されています。また藤原地区の工業用地では防潮堤の新設工事が行われていて、完成すると災害に対する安全性が高まり、企業の立地が期待されます。

また平成27(2015)年は宮古港開港から400周年。記念式典や開港時代行列、客船「ばしふいっく びいなす」の寄港など、さまざまな記念行事が行われました。



宮古港開港400周年記念・開港時代行列

